

**ドイツ緑の党ベアベル・ヘーン議員来日シンポジウム
「どうする?!核のゴミ
- 最終処分と合意形成を考える日独シンポジウム」を開催します!**

緑の党 グリーンスジャパン（共同代表・長谷川平和、他）は、ドイツ緑の党ベアベル・ヘーン議員の来日にともない、2015年7月31日（金）、核のゴミの最終処分をテーマとするシンポジウムを原子力市民委員会、eシフト、A SEED JAPAN、FoE Japanとの共催にて開催する運びとなりました。

主題：どうする?!核のゴミ - 最終処分と合意形成を考える日独シンポジウム -

日時：2015年7月31日（金） 18：45～20：45

場所：日比谷図書文化館 コンベンションホール（B1F）

主催：核のゴミ最終処分と合意形成を考える日独シンポジウム実行委員会

共催：緑の党グリーンスジャパン／原子力市民委員会／eシフト／A SEED JAPAN、
FoE Japan

日本では、高レベル放射性廃棄物（再処理したあとの核のゴミ）の最終処分地選定について、これまでの「自治体が名乗りをあげる」方式から国が候補地を選定する方式への転換が、2015年5月22日に閣議決定され、各地で国主催の「意見交換会」が開催されたところです。

一方ドイツでは、これまでの最終処分場候補地に関する探査をすべて白紙撤回し、2014年、連邦議会のもとに「最終処分場委員会」がつくられてあらたな議論が始まったところです。委員会には、政治家だけでなく労働組合、宗教団体、環境保護団体などの市民代表を含む33人が参加し、すべての議論に透明性をもたせながら合意形成をはかろうとしています。

原子力発電を持った以上逃れられない核のゴミ問題、最終処分に向けた合意形成はどのように行っていくのか。日独の事例から考えます。